



太陽をみよう！

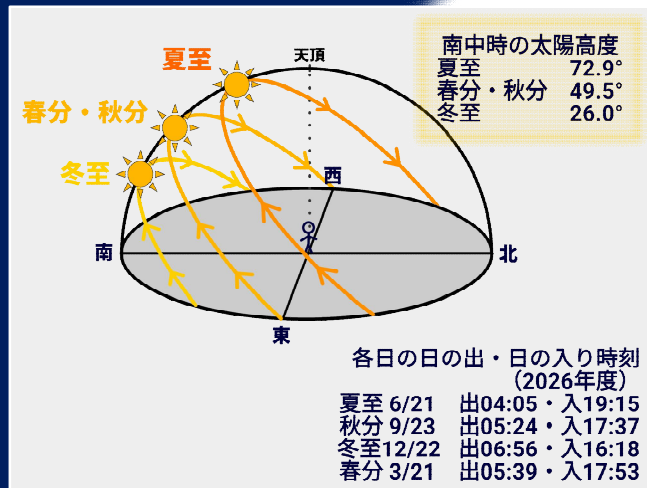


今年は6月21日が夏至の日。夏至は1年で最も昼の時間が長く、夜の時間が短い日である。

地球が太陽の周りを公転していることと、自転軸が傾いている影響で、太陽の高さが変わり季節の変化が生まれる。

弘前市における南中時（太陽が真南を通るとき）の地平線からの太陽の高さは、右図の通りとなる。

つまり、夏至のころは太陽が真上近くから日本を照らしている。そのため、日の出から日の入りまでの時間（昼の時間）が最も長くなるのである。



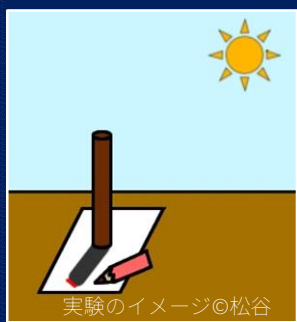
それぞれの季節における空での太陽の軌道と高度のちがいを
©松谷

<ためしてみよう>

夏至・春分（秋分）・冬至のころの太陽の高さが変わること、影の長さも変化する。小学校3年生で1日の変化の実験を行ったかもしれないが、応用して、夏至や冬至のころの影に変化はあるのかみてみよう！

☆用意するもの

- 記録用紙
- 棒（長さ15cmくらい）
- 筆記用具
- 定規やメジャー



☆手順

- ① 平らな地面に記録用紙を置き、棒などを垂直に立てて固定する
 - ② 日を変えて、同じ時刻に影の先端の位置を記録する
 - ③ 記録した日の影の長さを測り、比較する
- ※なるべく棒を立てる場所は変えないようにしましょう！

次回の観察会

【 2026年7月7日 (火) 】
19：30～22：00
(最終受付21：30)

テーマ
「七夕」

※休館日ですが、この時間のみ開館します！

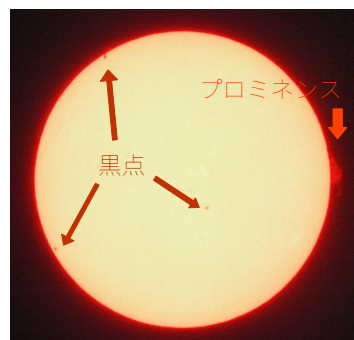
☆太陽

- ・ 自分で光をつくる「恒星」のなかま
- ・ 中心部で、水素原子がヘリウム原子に変わる「核融合反応」が起きており、その熱が光としてみえている
- ・ だいたい11年の周期で活動が活発になっている
- ・ 望遠鏡で太陽をみると、黒っぽい斑点のようにみえる「黒点」や、太陽のふちに炎や火柱のようにみえる「プロミネンス（紅炎）」がみられることもある

（太陽が活発なほど多く、規模の大きいものも多い）

※太陽を望遠鏡でみるには特殊な道具が必要です。絶対に直接のぞかないこと！

天文台や科学館などで観察しましょう！



撮影：ロマンピア天文台